



# 共同通信



2009年11月19日 159(369号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 59 『沖縄キャンブレポート』

ある日、ウチの奥さんから話があった。教会学校の沖縄キャンプで運転手を探しているという話だった。私の母は沖永良部で生まれたと聞いていたので、一度は沖縄という地に行ってみたいとは思っていた。しかし心配性の私としてはイロイロ考えていた。「お金は使うし、会社は休むし・・・。」

ある日、私が悩んでいると奥さんが「行ってきたらイヤん」と後押ししてくれたので、思い切って行くことに決めた。その後、大平さんと何度か連絡を取り沖縄行きが確定した。キャンプに向け色々準備していたら少しずつドキドキしていた。ちゃんと子どもたちを乗せて移動で

きるだろうか？ハブに噛まれた時はどうしたらいいのか？ハブの事が心配になりネットで調べると「急いで病院へ行くこと」と、当り前の答えが多く、心配するのはやめることにした。

出発の日が来た。私と大夢はリムジンバス乗り場まで奥さんに車で送ってもらい、大きな荷物と一緒にバスに乗り込んだ。発車時刻となりバスの扉が閉まると、指先に少し汗をかいた。バスが出るともう腹をくくり、空港までのんびりしようと寛いでいた。ところが、大夢がキャンプ用に買った新しい帽子がないのに気付いた。前日まで何度も忘れものチェックしたのに・・・。どうやら暑

いと言って車の中に忘れてらしい。急いで家に電話したが、バスはもう甲子園で間に合わず、大夢は電話で怒られてテンションが下がっていた。私は怒られた意味を大夢に説明し、二人でアメをなめることにした。空港に着くと気合のタバコを一服、皆を探しにロビーへ向かうとすんなりと合流できた。

挨拶をしていると見送りの人たちから「よろしくお願いします」と何人かに言われ、また少し指先に汗を感じていた。見送りの中に大字ママがいたので、私は挨拶をし「緊張しています」と言うと、「たいへんでしょうけど頑張って、いい沖縄時間をすごしてきて下さい」と言われた。いい言葉だなと思ったら、不思議と肩の力が抜け、気持ちが落ち着いた。機内に乗り込むと私だけ席が離れていると聞いていた。チケットの番号を見ながら探していると、中央4人掛けの左から2番目だった。右の2隻は空席で、左端には私よりひとまわり体の大きい兄ちゃんが、太い腕を肘置きにのせ、ipodを耳に入れていた。私はチケットをとった大平さんを少し恨んだ。しばらく体を右に傾け座っていたが、腰が辛くなっていた。そこへ石堂先生が現れ、「園長が私たちの方、席が空いていますからどうぞ、と」と言われて席を移ることにした。

園長は私に「その先生の間へどうぞ」と言い、石堂先生と近山先生の

間に座らせてもらうことになった。これぞまさしく地獄から天国だった。2時間で沖縄に着いた。ロビーから外に出るとすこぶる蒸し暑く、私の想像していた「カラッ」とした暑さではなかった。どうやら接近している台風8号のせいらしい。空港からは大型バスでレンタカー屋へ向かった。1BOXを2台借り、皆は大きな荷物と一緒に乗り移った。「いよいよ私の仕事が始まる時」だった。

少し緊張気味にハンドルを握り出発、高速に入ると大雨にあったが、すぐにやんだ。いわゆるスコールというやつだ。お腹も減ってきて遅い昼食を取ることとなり、メニューを聞くと沖縄そば。テンションがあがってきた。ところが着いたのはショッピングモール??私はきっと園長が行くそば屋だからとんでもない所にあるのだろうと思っていたので、なんだか拍子抜けした。中へ入るとテーブルを囲むように屋台風のお店が並んでいた。味はナカナカ美味しかった。私たちは食事も早々に済ませ、車を走らせた。目的地近くになり、県道をそれると多くのビニールハウスと畑の間を抜け、お墓(沖縄の墓の1基の敷地が大きいのに驚いた)の前を通った。すると芝生の広場が現れ、平屋の家が見えた。ゴールだ。車を降りて家の裏を見に行くと、断崖絶壁で目の前には大きな沖縄の海が見えた。しかしこの時、天気はもう

荒れはじめていた。私は噂に聞いていた男子が泊まる牛舎を探していた。先生に聞き、振り返ると芝生の100mぐらい向こうに、50mほどのコンクリ打ちっばなしの建物が見えた。あれが牛舎らしい。近くに行ってみると、私の思っていた藁を敷いた感じではなく、何もなただ広い不気味な感じの牛舎だった。中には大嫌いな南国サイズのゴキブリが走り、裏にはさっきのお墓が見えていた。私はココで寝るのかと思うと憂鬱だった。家の方に戻り、私は園長にツバを飲み込んで質問した。「私はどちらで寝たらいいですか？」すると園長は「こちらの家で寝て下さい」と言い、私はホッと胸をなでおろした。夕食の用意をする頃、雨と風がひどく、換気の為に開けていた窓のカーテンは宙を舞い、食器がテーブルから転がったりしていた。コックの卵、佐々君と子どもたちが準備してくれた夕食は美味しかった。佐々君は沖縄で5日間、子どもたちに食材の切り方などを教えながら飽きのこない美味しい食事を作ってくれた。夕食後、園長は幼稚園の先生二人と私を呼んで飲み会を始めた。園長は私たちの顔を見ながら「いいですか！言葉は大事ですから・・・」などと低い声で色々話をされ、最後に「鎌田さん、近山先生とお話して下さい、じゃ、終わりです」と言われたので訳がわからなかった。私はいつも奥さ

んに「口が悪い」と怒られるので、「何か悪いことでも言ったのだろうか？それともキリシタンへの勧誘なのか？」と思い、石堂先生に思い切って聞いてみた。「さっきの話をわかりやすく教えて下さい」。すると石堂先生は「園長はたぶん近山先生がもっと喋るように、鎌田さんから話しかけて下さい、ということだと思えますヨ」「本当にそれだけ？」私は園長があまりに意味深に話をされたので、理解できず困っていたのだが、それを聞いてホッとした。次の日から私は近山先生を“リーダー”と呼び、キャンプの間盛り上げることにした(近山先生は困っていたカナア?)。

キャンプ中に私は母から頼まれていたことがあった。「おみやげはいらないから、さとうきびを少し持って帰ってきて欲しい。子どもの頃を思い出して、さとうきびの成長が見たいから」ということだった。私は園長にもチャンスがあれば、さとうきびを手に入れたいをお願いしていた。ある日、園長と石堂先生が買い出しに出かけてすぐの事、私の携帯に石堂先生から電話があり、出てみると園長が車を運転しながら大きな声で「ビニールハウスのあたりに人がいるから、さとうきびの事を聞いてみたらどうか？」そして「子どもたちの分も貰ってきて欲しい」と。

私はすぐに出かけようとしたら、心細いので誰かを連れて行こうと

思ったら、美咲ちゃんと梨乃ちゃんに目が合った。訳を話すと、二人は快く引き受けてくれた。後で聞くと、それは車の中が冷房で涼しいという理由だったそうだ(笑)。3人で車を走らせると畑におばさんがいるのを見つけたので、訳を話してみたが「収穫は1月か2月だから・・・」と繰り返すだけで駄目だった。

私たち3人は少し時間をおいてから、もう一度ビニールハウスへ出かけたが今度は人影もなく、そのまま県道に出てしまった。道の角を見ると、納屋に一人のオジイがいたので訳を話してみた。オジイは少し考えると「ついておいで」みたいな事(方言がわかりにくかった)を言ったので、私は嬉しくて車を置いたままオジイの軽トラを追いかけた。しかし軽トラは思ったより勢いよく走りだし、私は慌てて車を取りに戻った。美咲ちゃんと梨乃ちゃんが走って追いかけてくれたので、迷わず止まっている軽トラを見つけることが出来た。そこには広くないが、いっぱいさとうきびが畑になっていた。オジイは2本のさとうきびを掘り起こすと、大きなハサミで何本かに分けてくれた。

私は念願のさとうきびを手に入れることができ、この優しいオジイに何かしてあげたかったので「ココにまだいますか?お礼を・・・」と言うと、オジイは「本土にはお返しの風習

があるみたいだけど、沖縄にはないよ。ワシは無いものはあげられないが、有る物をあんたたちあげるだけなんだから遠慮しなくていいんだよ」。私はその時、胸の中を温かく何か柔らかいものが通り抜けたような気がした。貰ったさとうきびを持って帰り、茎の切り口をなめてみたが、少し甘みを感じるぐらいだった。たぶん収穫時期ではないからだろう。子どもたちにも勧めてみたが、評判はイマイチだった。私は皆に「さとうきびが珍しかったら、西宮に持って帰ってイイよ」と言ったが、子どもたちは「荷物が重くなるう」「いらない」。私は子どもの残酷な声にめげそうだった(泣)。この日は午後から待望の沖縄の海に入るようになっていた。地元の牧師も来て一緒に潜るらしい。沖縄キャンプベテランの石堂先生に「どんな方が来られるの?」と聞くと、先生は薄笑いしながら「海人(ウミンチュ)が来ます」。すると近くにいた佐々君も「あっ、あの海人かぁ!」と。キャンプ経験者に聞くと皆口をそろえて同じことを言うのです。少し浮かない顔をして。。それはまるでタタリを恐れる村人たちのようでした。しばらくすると、牧師さん(岸部シローに似てた?)が到着した。失礼だが牧師さんには見えなかった(ゴメンナサイ)。

私たちが皆海へ下りて行くと、砂浜に現れた牧師さんは長身に黒い

ウェットスーツ、頭にはワラで出来た笠をかぶっていた。なんとなく海人チックなスタイルだった。私たちは水中メガネとシュノーケルをつけ、さっそく沖縄の海へ潜った。珊瑚がうかぶ浅い波間に体を浮かべると、色鮮やかな魚たちを覗くことができ、楽しかった。

しばらくして園長に皆、砂浜に上がるように言われた。どうやら海人がみんなにカツオの刺身をご馳走してくれるらしい。私は刺身が好きなので楽しみにしていた。海人はクーラーボックスからカツオを取りだすと、波が打ち寄せる岩の上で魚をさばき始めた。私は波にプカプカと浮かぶ魚の頭と内臓を見ると、少し食欲が消えた。海人はさばき終わるとボックスから自家製の酢味噌を出し、皆にカツオを振舞ってくれた。私が「酢味噌おいしいですね」と園長に言うと、小さな声で「食中毒防止の意味もあります」と答えが返ってきた。海人は2匹のカツオをさばくと、今度はボックスから何かを取りだした。見ると、スーパーで売っている小さなパックに10cmほどのキビナゴが入っていた。海人はキビナゴの尾をつまみ、酢味噌をつけると空に向かって口を開け、パクリと飲み込むように食べて見せた。私もそれを勧められ、少し頂いたがまああの味だったように思った。ふと、ボックスの中が気になり覗いてみると、キビ

ナゴのパックに「生食用」と書いておらず、不安になったのを覚えている。私は不思議な彼の事を、海人ではなく海の神様と呼んだ方が正しいのでは？と思った。いろんな事があった沖縄キャンプ、最初は台風でどうなるかと思いましたが、私は見て、触って、食べて、話して、泳いで、本当に充実していました。

最後に、キャンプへ行くことを後押ししてくれた奥さんにありがとう。私が参加できるように段取りしてくれた大平さんありがとう。沖縄へ連れて行って下さり、いろんな体験をさせてくれた園長先生ありがとう。皆の優しいお母さんだった石堂先生ありがとう。車の中で恥ずかしそうに話したり、点呼をしてくれた近山先生ありがとう。毎日、飽きのこない美味しい食事を作ってくれた佐々君ありがとう。子どもたちと楽しく遊んでくれた芦田君ありがとう。子どもたちも皆、楽しいキャンプをありがとう。私はこのキャンプで皆が無事に帰ってくれた事が一番嬉しかったです。心に残る沖縄キャンプをありがとうございました。

(鎌田 慎三)



「民主党小沢一郎幹事長は10日、和歌山県高野町で記者団に『キリスト教もイスラム教も非常に排他的だ。その点仏教は非常に心の広い度量の大きい宗教、哲学だと語った。高野山金剛峯寺を訪れ、高野山真言宗の松長有慶管長と会談の直後、仏教のありがたさを強調するあまり脱線意味となった。

来年にスイスで開かれる国際会議に松長管長が出席することから、『欧米人に仏教の真髄を説いてやるのは非常に意義がある。大変うれしい』さらには『排他的なキリスト教を背景とした文明は今、欧米社会の行き詰っている姿そのものだ』と文明論にまで言及した。」

(2009年11月11日、朝日新聞)

“十字架につけられた”イエスが、「・・・わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マルコによる福音書15章34節)と叫んだ時、その言葉のすべてを込めて、神と向かい合っていました。“わたしを見捨てたのか”という満身の思いをその言葉に込めて神と向かい合っていたのです。そして絶命するのですが、イエスのその状況、事態に神は介入することはありませんでした。「イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた」(同、37節)。その一部始終を見ていたローマの百卒長は「まことに、この人は神の子であった」という証言を残すことになります(同、39節)。

これとは別に、十字架につけられたイエスを見上げる、別の人たちの様子も描かれています。「そこを通り

イエスをののしって言った、『ああ、神殿を打ち壊して三日のうちに建てる者よ、十字架からおりてきて自分を救え』」(同29、30節)。「祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒にになって、かわるがわる嘲弄して言った。『他人を救ったが、自分自身を救うことが出来ない。イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい』」(同31、32節)。「また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった」(同、32節)。ということで、“そこを通りかかった”普通の人たちからさえも、イエスは拒絶されていました。単に拒絶したというよりは、期待を裏切られたことに対する苛立ちや憤りが、“頭を振って”“ののしる”などの振舞いになったと考えられます。祭司長・律法学者の場合、十字架につけられ誰も手を差しのべる者のないイエス

は、“口ほどにもない”と嘲弄するにも値しない存在に見えたかも知れません。なのに、イエスの処刑の執行に立ち会って、一部始終を見ていた百卒長は、目前で絶命するイエスを、“神の子”と証言します。“神はわたしを見捨てた”という叫びを残して絶命したイエスが、百卒長には神の子に見えたのはなぜだろうか。そこを通りかかった者たちは、イエスの十字架を見上げ、頭を振りながらのしります。祭司長や律法学者は、経緯から言えば少なからずイエスを嘲弄する理由、利害関係にはありました。しかし、“通りかかった者たち”との間には“ののしられる”ような利害関係はなかったはずで、口ほどにない、期待を裏切られた、などのことでしょうが、それだけでのことであっても、無防備なまま十字架につけられ、孤立している人を、人はののしたりするものなのです。

ローマの百卒長は、“そこを通りかかった者たち”や“祭司長・律法学者”と明確な利害関係がありました。百卒長は、有無を言わず支配する例として。ののしる相手がいたとしたら、そうして最前線でローマの力を行使する百卒長（及びその配下の兵士たち）であったはずで、そうであったはずなのに、より近い関係にあるはずの人が十字架につけられているのを見上げ、その人をののしている人たちがそこにいました。な

のに絶命するイエスを見て、百卒長が口にした言葉が“まことにこの人は神の子であった”でした。ローマの百卒長、職業軍人としてそこにいてイエスの処刑に立ち会う時、別のそれを実行する以外の別の余地はありませんでした。しかし、この時の百卒長が“通りかかった者たち”や“祭司長・律法学者”と少し違っていたのは、状況によっていかようにでも変わってしまえる人として、そこにはいなかったことです。人は、多くの場合に利害の中で生きて、利害によってその振る舞いは左右されます。すべてがそんなものだということではなく、少なからず異なった生き方が、できなくはないのです。ローマの軍隊の、組織の真っ只中にいたとしても、見つめる目や、受け止める心のすべてが曇ってしまわない生き方は、この百卒長のようにあり得るのだという意味で。十字架で絶命するイエスの何を見て、百卒長が“この人はまことに神の子であった”とどうして言い得たのかは、明らかではありません。更に神にも見捨てられ、全くの孤立を引き受けてそこにいる人に対する驚きが、そんな言葉になったとすれば、あり得るかも知れません。

たまたま、そこで出現してしまった極限の状況で、生ま身の人が晒されてしまう生き様のいくつかが、ここではあらわになっています。普通に生きている人たちが、普通に了見 7

が狭く排他的な生き様を晒すことも  
 あります。元々料簡も狭く排他的な  
 人たちが、そのまま見の狭さや排  
 他的な生き様を晒すこともあります。  
 更に、ローマの百卒長としての立場  
 や責任を背負いながら人を見つめる  
 目や受け止める心が曇ってしまわな  
 いという生き様もあり得ます。

(菅澤 邦明)

Ⓜ` •jE•, İ, ç, İ, è•`

•@`"V<F"~%i, İ'•A •H, ©, ç"~, É•İ, í, Á, Ä, ç, -<ó, ð' -, ß, Ä, ç, Ü, ••B  
 ^ê"ú, ð<F, è, ð, à, Á, Ä•n, ß, ç, ê, é, ±, E, ðŠİ, Ñ•A Š'•ó, µ, Ä, ç, Ü, ••B

•@

•@-c' t%•, Á, Í•A •q, Ç, à, ½, ç, ^Šy, µ, Ý, É, µ, Ä, ç, ½^"•%i, E, ", Ü, Á, è  
 , ^s, í, ê, Ü, µ, ½•B -c' t%•, İ•q, Ç, à, ¾, -, Á, È, -•A ' %•, µ, ½•q, Ç, à, ½  
 , ç•A ^ø, Á%z, µ, µ, ½•q, Ç, à, ½, ç•A 'n^æ, İ•q, Ç, à, ½, ç, ^, ½, -, ^, ñ•W  
 , Ü, Á, Ä, -, ê, Ü, µ, ½•B , ±, İ"ú, İ^x, É•A '½, -, İ`á•l, ½, ç, ^•v, ç, ðŠñ, ^•A  
 ••"ö, µ, Ä, «, Ü, µ, ½•B

•@\_ , ^, Ü•A •,, ½, ç, `á•l, ^•i•A -Ú, İ`ó, É, ç, é•q, Ç, à, ½, ç, İ^x, É, ç, ê  
 , ¾, -, İ, ±, E, ð•-, •, ±, E, ^, Á, «, é, İ, ©, E•l, |, ^, ^, ç, ê, Ä, ç, Ü, ••B -^  
 , |, é, E, Í•v, Á, Ä, ç, Ü, ^, ñ•B , ½, ¾•A -l•X, È•-, ð<ç, ÉŠ' , ¶•A <ç, É•S, ð  
 , ó, é, í, ^•A <ç, É, ±, İ•ê•Š, É•Ý, è, ½, ç, E•v, ç, İ, Á, ••B

•@, ç, ç, ©•A •,, ½, ç, ^•q, Ç, à, ½, ç, E<ç, ÉŠİ, Ô•S, ð-Y, ê, é, ±, E, ^, , è  
 , Ü, ^, ñ, æ, ç, É•B , » , µ, Ä•A •q, Ç, à, ½, ç, İ•à, Ý, ^•\_ , ^, Ü, İ^ç, É, æ, Á, Ä  
 •ç, ç, ê, Ü, •, æ, ç, É, E•A <F, ç, ^, Ä%°, ^, ç•B

•@

•@, ±, İ^êE¾, İ<F, è•A ' , «•âfCfGfX •EflfŠfXfç, İCÄ-¼, É, æ, Á, ÄEÀ`ó  
 , É, "•ù, °'v, µ, Ü, ••B •@fA [f•f"

ⓂⓂ •@ •@ •@ •@ •@ •@ •@•@•@i`á•½@-L•I•j



## “ うんどうかいや～ おまつりや～ ”

すっかり秋ですね～。澄んだ空気に青い空！時折吹く風は冷たく、でも日中は太陽の光が暖かく、太陽のありがたみを感じます。

街では金木犀のいい香りがしたと思ったら、もう花は散ってしまっていて、自然の営みに驚かされてもいます。木々たちは黄色や赤にオシャレをされていて、私たちを楽しませてくれていますね～。

自然の営みを多く感じることでできると言えば伏原町にある幼稚園の畑。春、子どもたちをいっぱい嬉ばせ、楽しませてくれたのはいちご。ぽっぽぐみの子どもたちは自分たちの手でいちごを摘み、そんな摘みたてのいちごを畑を見ながら味わう・・・それも、自分の手で摘んだいちごを～です！こんな経験、初めて～という子どもたちも多かったはず。そして、さんぼ・らったぐみ、年長ぐみはいちご摘みを経験済み。ぽっぽぐみの子どもたちと畑に行った際には、『あかいのは、まる～！あおいのは、ぱつ～！』と、初めてのいちご摘みをするぽっぽぐみの子どもたちに教えてあげる、という場面もありました。存分にいちごを味わった後はさつまいも。全クラスで畑を訪れ、さつまいもの苗を植えました。植えたら終わり～ではなく、何度も畑を訪

れ、その成長を自分たちの目で見てきました。そして、再び全クラスで畑を訪れ、さつまいもを掘りました。手にはブカブカの軍手をはめて～です。そんな姿だけで、子どもってかわいいんですね～。小さいのから大きい、丸いのや細長い、でこぼこのものもありましたが、全て自然そのもの！農薬を使ったりはせず、太陽の光、雨、そして大きく、美味しく育ててほしいという子どもたちの願いが一番の肥料になって、今年は202キロものさつまいもが収穫されました～！！収穫した、その日に蒸かして頂いたのですが、やっぱり自分たちの手で植えて、様子を見に行き、そして自分たちの手で収穫したさつまいもは、最高の味！今まで味わったことのない味がしたよね。それからの日々、ほぼ毎日さつまいもを味わっている子どもたちです。畑の恵み、自然の恵みに感謝し、そんな自然の営みに驚かされたのでした。

いちご畑からさつまいも畑、そして再びいちご畑に。姿を変える際には、畑に心を寄せて下さっている園芸サークルのお母さん方を中心に、多くの方々のご協力で、畑が耕されきれいな畝が出来上がっていました。さつまいもの後は再びいちご！また全クラスで畑を訪れ、いちごの苗を 9

植えました。ぼっぼぐみは、さんぼ・らったぐみに、さんぼ・らったぐみは、年長ぐみになってから味わうことになるいちご。年長ぐみは幼稚園を卒園し、小学生になって～です。小学生になっても畑のいちごを味わうことが・・・できる日があるんですよ！教会学校で畑を訪れ、いちごを味わう時間があり、卒園しても思い出っぱいの幼稚園の畑を訪れ、いちごを味わうことができるなんて、なんて贅沢！そんな素敵な時間が流れている畑、これからも子どもたちとたくさん訪れ、たくさんの自然を感じるができますように

11月3日は2009年度の運動会が行われました。幼稚園ではなく、近くにある能登運動場をお借りして。このことが当たり前ではないことを思うと同時に本当に多くの方々を支えられていると感じ、感謝致します。少し肌寒い朝となりましたが日中は太陽の光が暖かく、青空も広がっていました。幼稚園の子どもたちだけではなく、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、小さなおともだち、そして、たくさんの卒園した子どもたちも広場に集まってくれました。卒園児だけではなく、少しでも関わりのある子どもたちもリレーに参加してくれました。子どもの発表会ではなく、そこに、広場に集まった人たちが参加して楽しむ、

方から声をかけて頂きました。それこそが共同の運動会。そのよさを今年も身をもって感じる時間となりました。みんなの思いがどれだけ強くてもお天気だけはどうにもなりません。そんな中、恵まれた天気を与えられたことにも感謝致します。運動会の日だけではなく、子どもたちと過ごす毎日が多くの方々により守られていると感じます。散歩へ出かけると地域の方が声をかけて下さいます。それもごく自然に。だからこそ、こちらも、子どもたちも自然と接することができ、自然と会話が生まれて弾んだりもします。近くだけではなく、遠く離れた所から子どもたちのことを思い届けてくださることも多くあります。卒園した子どもたちからも多くの思いが毎年届けられ、離れていても心はつながっている、そのことを感じさせてくれる言葉も頂いています。卒園しても、共同にいたことは事実で、そこで過ごしたかけがえのない仲間はいつまでたっても仲間なのです。そのことがとても羨ましく、自分もここ、共同に通いたかったと思うことが多くあります。通えなかったけれど、今こうして共同で子どもたちと過ごせる毎日が嬉しく、自分の子ども時代を取り戻しています。そんな恵まれた環境で働いていることを日々感じ、感謝しています。

もうすぐ共同まつり！子どもたち

と、『あと かいねたら～！』とその日までの日々も指折り数えて楽しんでいきます。そして、当日は、たくさんの懐かしい仲間との再会などもあり、大人、子どもの笑顔がいっぱいに見ることのできる1日になることでしょう。

子どもたちとの毎日、運動会や公同まつり・・・いつも子どもたちの笑顔が守られていることを覚え、これからも子どもたちの笑顔をいっぱいに見ることのできる毎日でありますように・・・

(水田 有希)

## すずや便り

ある日の夕方、洗濯物を取り込もうとベランダに出てみると、ものすごい鳥の鳴き声です。あらゆる方向から聞こえてくる感じ。思わず周囲を見回し、まず目に付いたのは動いている電線です？よ～く見てみると、鳥がぎっしり。あまりにびっしりと止まっているので遠目からだと太目の電線がうねっているようにしか見えないのです。うちは4階なので、電線を見下ろす位置にあるのですが、飛んでいく鳥を追ってふと視線を上げると空が黒い！どこからこんなに・・・と視界を広げていくと向こうの電線、屋根の上にも鳥のシルエット。これがみんなさえずっているに違いない、ほどの重層的な鳴き声です。しばし口を閉じるのも忘れて見ていま

したが、空中に塊＝群れがいくつかあるのに気づきました。隊列を組んで飛んでいく鳥のようなのですが、それよりもっと細かい粒の集まりです。動く点描画といったところでしょうか。いくつもの群れが重なり、また離れていきます。角度によって厚みが出たり、薄く広く見えたり。群れと電線でもメンバーチェンジがあります。止まっていた鳥が飛び立つと、その群れは一瞬ふくらみ、空に向かって伸びていきます。まるでおおきな生き物のよう。入道雲をいろいろに見立てるのは違い、スピード感があって魚が泳いでいるような感じ～まさに「スイミー」です。みんなで一匹の大きな魚に見せる為にはあのくらいのスピードで泳がなくては

だめに違いない、サンゴはあの辺り、空に浮かぶ雲はクラゲ・空はたちまち海中になり千羽以上（はきつといたでしょう）のスイミーたちの泳ぎに釘付けです。いつのまにか口が空いていたらしく、口の渇きではっと我に返り部屋に戻りました。少ししでもう一度ベランダに出るとさっきとは全く違う空気感。一羽も鳥がないのです。こんなことってあるのかしら、と耳を澄ますと遠くのほうから鳥の鳴き声が聞こえてきました。空のスイミーたちは遠くへ行ってしまったようです。我が家の周辺に集まっていたのもそんなに長い時間ではなかったのかもしれませんが、それにしてもどんなきっかけで一斉に飛び立ったのか、その瞬間を見られな

かったのが唯一心残りです。口が渇かなければ我に返ることもなく見届けることができたかもしれません。またの機会に備えて口をしっかりと閉じて空を見上げる練習をすることにします。

（富家 香麻里）

## みかん便り

こんにちは。11月になり一気に寒くなったと思えばまた過ごしやすい気温に戻りました。10月から新学期も始まって1ヶ月も経ちました。高校時代は時間が無限にあったような気分でしたが、大学生になると時間が進むのがとても早く感じます。

10月には少し嬉しい事がありました。高校の時、いつも慕ってくれていたひとつ年下の車椅子の女の子がいました。体育祭のときに一人で暇そうにしていたので、喋りかけたとき

12から仲良くなったのだと思います。

高校卒業の時にメールアドレスを聞かれたのですが、たまたま電池が無くて、「また今度先生に手紙を渡しとくから受け取って！」ということでお別れしました。それから1年半以上経った先月、約束を思い出したんですけど、その子の名前すら知らなかったんで大ピンチ...笑 思い出してどうしようかあれこれ考えていたその翌日、なんとその子からメールが来ました。いろいろ知り合いを通してアドレスを手に入れたようです。全部俺が悪いんですけど、嬉しい気

持ちとホッとした気持ちでいっぱいでした。高校の時に「足を治して先輩みたいにダンスをやりたい。」と言っていた彼女も、手術が上手いこといなくてまだ歩けないようです。今は少しでも音楽と一緒に生活をしたいということで、軽音サークルで頑張っているらしいです。それに比べて、特に何もしてない俺が情けない。でも、そのおかげで何かをやるうと思ひ、今月から教員採用試験の勉強を始めました。しっかり勉強するのは大学受験以来なのですが、毎日楽しく勉強しています。

この女の子が言うには、廊下で会ったり、職員室で会ったり、掃除中に会ったり、いろんな場所で笑顔で声をかけてきてくれる先輩は俺だけだったそうです。高校時代、人から感謝されるようなことは1つも出来ていなかったと思っていたのに、この言葉だけで少し救われました。実際は職員室で先生を待つ暇な時間や、掃除をサボるためなどの理由で声をかけていたんですが、思いのほか好評でよかったです(笑)

自分が思ってもいないところで評価があがったり、下がったり。良くも悪くも、自分の伝えたいことと違うことが伝わっていたり。1つの会話の中のたった1語を変えるだけで伝わる思いが全く変わってくる。今回は全てが良いように向いてくれていますが、少しでも何かが違っていれば

ただのウザイ先輩だったかもしれませんが。コミュニケーションって難しいですね。コミュニケーションは会話だけではなく、表情や声や身振りなど、いろんな条件が合わさって相手に伝わるものなのだと思います。でも、そんなん言ってもやっぱり気持ちが一番大事やって思ひます。気持ちの無い言葉は相手には届かんし、気持ちの無い笑顔はただ気持ち悪い。気持ちの無い身振りは不恰好なだけです。そう思うと、あの時、あの言葉が無ければ今も仲が良かったのに。とか、あの時ももう少し親身に話を聞いていたらなあ。など色々反省する点を思い出しました。これから先はそんな事は減らして生きたいと思ひます。大学生活でもっとコミュニケーション能力を高めていかないとなあと思った1ヶ月でした。

(河村 高志)



## 教会学校から

### 《10月の活動報告》

10月4日(日)

秋の新米・おにぎり大会!

10月11日(日)

わなげ大会!

10月18日(日)

幼稚園と合同・ドミノ大会!

前日からひそかに幼稚園2階に準備していた“花のドミノ”動物園のドミノ”に子どもたちはびっくり仰天していました。子ども代表が5、4、3、2、1の掛け声で倒すと大歓声!その後は学年対抗のドミノ競争で盛り上がりました。

10月25日(日)

アイスクャンディー・スティックを使って“作って遊ぶ”

### 《11月の活動予定》

11月1日(日)

沖縄のスパム&青森のリンゴサンドイッチを食べる  
オリーブ大収穫

今年のオリーブは粒が大きく、しかも去年の2倍もとれました。漬けるのは一苦労ですが、みんなで力を合わせてとったオリーブの“塩漬け”は毎年公同まつりで大好評です。

11月8日(日)

“ゆびハブ”作り

一度指を入れたら引っ張っても中々抜けない“ゆびハブ”のおもちゃは、教会学校の皆で作って、公同まつりで販売されます。

11月15日(日)

射的大会・幼児祝福礼拝

11月22日(日)

クリスマスグッズ作り  
クリスマス映画鑑賞会 No.1

11月29日(日)

クリスマスグッズ作り  
クリスマス映画鑑賞会 No.2

2009年11月 あんなこと こんなこと...



# 大切な贈り物・津門川 8 6

“ 川そうじ日記 ”

## まいのなんでも案内

こんにちは。今日も今日とて締切を延ばしていただいている舞です。恐縮で涙がちょちょぎれんばかりです。外はもうすっかり冬。いくつかの仕事先ではイルミネーションもちらほら。街には心なしかカップルが増え、私のオアシス（休日に部屋着・眼鏡＋ で立ち寄る近所の本屋）にも出現率が上がってきました。頼むからやめてほしい。仕方ないからマスクと帽子とマフラーを装備に加えようとも思ったのですが、うっかり入店禁止になりそうなので検討中です。

さてそんな今日この頃、私ニュースといえば、作家の江國香織さんのトークショーに行ったことでしょう。江國さんはまあ現代日本の女性作家で、恋愛小説といえば！という方でして、私が初めて自分で買った本『きらきらひかる』の著者でもあります。が、デビューは実は童話。で、この度初めて長編童話を出版したということで、名古屋でひっそりとイベントがあったのです。ここぞとばかりに職権濫用して潜入してきました。正直に言うと、読んだ年齢が早すぎて好きになれなかった作品などもあり、ファンを名乗るにはおこがましいのですが、何度読み返しても好きだと思える作品もあるんですよねやっぱり。というわけでドキドキしながら

然に格好よくて、作品のままの雰囲気、気取るとか無理するとかいうことなく纏っていらっしゃる方でした。子どもの本の世界と現実世界を自由に行き来できて、そのバランスが私の理想なんですよ。椎名林檎さんとは別の面で私の憧れとなりました。ちなみに他に好きな女性作家はよしもとばななさんと梨木香歩さんです。江國さんを除くと、皆さん名前に果物が入っていらっしゃるので、私もそろそろ高橋蜜柑あたりに改名しようかと思えます。嘘です。

で、その新作長編童話は『雪だるまの雪子ちゃん』と言いまして、まあ童話であっても大人も充分楽しめる、というか、子どもだった大人のための本、という気がします。や、自分が対象年齢無視して本を読んできたもので、あまり「大人向け」とか「子ども向け」とか、分けてしまうのは好きではないんですけど。とりあえず、雪子ちゃんは野生の雪だるまで、日本のどこか北の方の山の村で、一人で暮らしています。人間の友達もいません。雪だるまなので、夏は「休眠」しますが、冬には学校にも遊びに行きますし、ポーカーもしますし、ご飯だって一人で用意します。そんな雪子ちゃんの、ある一冬を書いたお話で、挿絵・装丁がまたおしゃれ。銅版画の山本容子さんの手によるわけで



すが、カバーは一面の雪の結晶でシンプルなのに、カバーを外すと・・・まゝこれは実際に目にしていただくのが一番だと思うので明言は避けませう。そして営業はしたくないと言いつつ、でも、やっぱりこの本は多くの人の手元に置いてほしいな、と思います。

はい、そんなわけでどうしても仕事と仕事以外に差がなくなってくるのが、趣味を仕事にしてしまった人の悲しいところなのですが、それで良いことも勿論あるわけですし。私が幼稚園に入る前、4つ上の兄の幼稚園のお迎えを待つ間に行っていた「ブックスシオサイ」さん、まゝこれをお読みの方の大体をご存知かと思うんですが（なんてたって共同幼稚園のお隣。あ、隣の隣？）、帰省した時に立ち寄ると、何かこう仕事の話ができるんですよ！大きな顔ができるんですよ！あ、あたし今社会人っぽい？みたいな。小さい頃からの場所に、この歳になって正式に（いや正式じゃないけど）関われるのはすごく嬉しいな、と思うわけです。だって週2で行ってたもん！ツナサンドと卵サンド食べてたもん！当時は間取りとかメニューとか全然違ったんですけど、でも絵本が沢山あるのは変わってなくて、幼い私がシオサイでどれだけの本を読んだか分からないぐらいです。今も絵本中心なのは変わってなくて、やっぱ

り嬉しいです。ムッシュアッシュのパンは日本一好きですし。今度帰ったら、クリスマス気分を味わいに、また行こうと思います。きっとクリスマスグッズが色々入っているはずなので！皆様も是非お茶してってくださいね。（回し者か）それでは、また来月。

（高橋 舞）

## つとがわ 編集後記

「...排他的なキリスト教を背景とした文明は今、欧米社会の行詰っている姿、そのものだ」「キリスト教もイスラム教も非常に排他的だ」(小沢一郎、民主党幹事長、2009年11月11日朝日新聞)と言われたりするキリスト教は、礼拝に集められたそこにいる未受洗者に配餐した教師に、それを止めないなら戒規を適用して退任を迫るなどのことに執拗だったりしますから、排他的にキリスト教をしている場合も多いのだと思います。しかし、その始まりにおいて、教祖(イエス)とされた人は、その時の宗教の排他性をあれこれ批判していたりします。どんなに“心の広い度量の大きい宗教・哲学”も、それを受け止める人によって、如何様にでもなり得るのだと思います。更に、行詰まっているということだったら、この国も欧米社会に負けていません。そして、度量の広い宗教の国であるはずなのに、街や街の人たちの生活と共存できない米軍基地の多くを、沖縄に押し付けたまま平気であったりもします。

( K )

私は蜘蛛が苦手です。小さい頃住んでいた家に、手の平を広げたくらいの大きな蜘蛛が住んでいて、家の廊下をカサカサと音をたてながら素早く動いていたのが恐ろしくてたまらなかったからです。でも先日、祖父の畑にて夕方、小さな蜘蛛が巣を張っている最中に出会いました。見事なその模様、全体が見えているわけでもないだろうに、お尻から糸を出しながらどんどん張っていくその住み処は美しく見惚れてしまいました。蜘蛛を手を持ったいたずらっ子に追いかけれ泣いた事もあるけれど、あの8本の足が苦手でやっぱり好きにはなれないけど、子ども達との散歩で蜘蛛の巣を見つけると少し気になって見てしまうこの頃です。

( I )

「引き出しの中のラブレター」という映画を観に行きました。恋人や好きな人に宛てたものだけでなく、日頃お世話になっている人、家族や友人への感謝の気持ちを綴ったものも含めてラブレター。

学生時代から手紙を書くのが好きで、便箋やポストカードを集めたり、かわいい切手が出たら買いに行き、事あるごとに手紙を出します。家族の誕生日や父の日、母の日にはメッセージを添えてプレゼントを渡したりします。だけど、映画を観て、周りの人たちにちゃんと感謝を伝えられているだろうか～と考えてみると...伝えないまま後悔しないように、普段から思いを伝えられるようにしたいな、と感じさせられました。

( Y )

色々なジャンルの音楽を楽しんだ10月でした。9月初めに行った野外ライブで出会ったグループ『鶴』この時初めて聴き～そして先日ライブでまたまた生で聴くことができました あっという間の2時間!立ちっぱなしだろうがへっちゃらですそして私が共同と出会わなかったら子ども達とこんなにも楽しむことはなかっただろう曲があったり、渋い声が素敵なバンドに出会ったり...あ!忘れては行けない沖縄からやってきたあの人たちのライブも楽しんできました

芸術の秋を思いきり楽しんだ10月でした。(秋かと思っていたら上着が分厚くなっていたりクリスマスツリーの準備が始まっているところもあり時の流れの早さを感じています...)

( N )

娘が昨年土地を購入ととともに家も建てた。住宅産業で働いていることもありそういう流れになったようだ(それにかなり“奥地”)。建築がかなり進んだころちょっとのぞきに行ってみた。玄関へのアプローチの右手に花壇用にと整えられた場所があった。畳1枚くらい。婿殿が「ここはおかあさんの場所です。好きなようにしてもらったら、花が好きだからという思いで言ってくれたのだろうけれど間違っって受け取ったら「わたしここかい!」ということになる。ならなくてもあの人たちの家だからそりゃあ玄関先が綺麗だといいわねということに。いえ決して間違っって取っってはいません。何度か花苗などを持参でかよった努力と彼らの日日の働きもあり、なかなかいい正面になっていっています。で、今度は裏、先日2度ほど行って耕して畝が2列ほど。これはスコップ程度のわたしの働きではなく、鍬などをふるったわが夫の出番によりなかなかいい趣に。2003年今の家に転居した際、小さな庭に誕生した畑はその後あまり展開はなく結局開花の時期が終わった宿根草などを植えこむわたしのせいで何でもありの花壇みたいになったけれど、この秋誕生したたまねぎといちごの畑は如何に、おあととはよろしく。何せ行きたいけれど高速で走っても1時間、癒しの趣味にするには少し遠いかなと。

( J )